

セグウェイを用いた 路上のコミュニケーションを 活性化する交通安全プログラム

日本大学理工学部交通システム工学科
檜垣 悠斗 齋藤 幹貴 五十嵐 一馬
釘井 里紗子 渡部 拓大 大塚 純

国士館大学理工学部理工学科建築学系
山下 浩一朗 森田 尚実

殺伐とした交通社会

交通マナーの悪化

交通ルールへの過度な依存

他人に無関心な公共空間



コミュニケーション不足によるヒヤリハットの例

コミュニケーションが原因？

従来の対策

立哨活動
ポスター
マナー啓発の看板
これだけで伝わる！？

路上信号機
歩きスマホを前提！？
自歩道、自転車横断帯
守っている！？



どれも問題の解決には至っていない

問題の解決には、まちのコミュニケーションの改善が必須！

コミュニケーションが改善されると・・・

- 歩行者同士の譲り合いが円滑になる
→すれ違う時も錯綜が起きにくい
- あいさつが増えると相手の顔を見る
→周囲に関心が持てる
- 公共空間において他人とのつながりを認識
→自らの行動に責任を持てる

国内におけるパーソナルモビリティの動向・特徴

法律の制限

明確な制動方法がないため、法律上、公道での走行が認められていない

安全性の検証

規制緩和に向けた安全性の研究

規制緩和

一部地域で実験的にセグウェイの走行が認められた

ー現状：乗り物としての安全性の検証で留まっているー

セグウェイの特徴

モビリティの特徴に加えて、既存の移動体にはない
コミュニケーションツールとしての効果が期待できる



- 注目を集める
- 歩行者との親和性が高い

公共空間で多くの
コミュニケーションを生む潜在性

対象地：東京都世田谷区 二子玉川

実証の場としての二子玉川

- 国内でセグウェイが公道で走行できるのは2例目
- セグウェイの公道走行は都内初の事例
- 住民のまちづくりへの参加意識が高い

二子玉川地区交通環境浄化推進協議会とは

「新事業活動計画」の実施事業者である

東急やセグウェイジャパンの

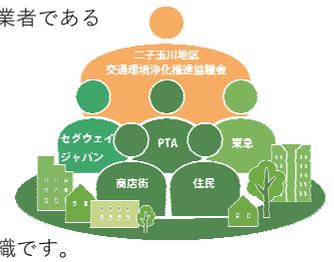
2社をはじめ、関係各所と

調整しながら交通浄化を

進めている玉川地区の

交通安全をより多くの人に

伝える取り組みをしている組織です。



地域が抱えている問題

- 大規模開発で新旧住民の繋がり希薄化を危惧
- 住民が悪質な交通行動に対し、危険を実感

コミュニケーションツールとして利用

交通問題を解決するためのセグウェイツアーを検討

セグウェイ×ツアーで意識の変化を体験

講習を受ける

新しい乗り物に触れ
まちにできる心構えが
出来るようになる



コミュニケーションレベル

まちに出る

まちにいる人に触れ
見られている意識を
持つようになる！



視点が変わる

自然に周囲の人や環
境に関心が向けられ
るようになる



意識が変わる

まちに対する日々の
意識が変わる
セグウェイに乗って
いなくても
自然と思いやりの
気持ちができる



交通安全
の
意識向上

自然に声をかけられるようになり

あいさつや譲りができるようになる

+

セグウェイに乗って注目されることで

行動に責任を持つようになる

Q.乗車して意識はどう変化しましたか？

改めて人との距離を意識するよう
になりました。また、周りの人の
動きが気になるようになりました。

二子玉川商店街理事
橋たかさん

交通安全の意識を高める！

まちをもっと盛り上げる！

“譲る・譲られる”を集めよう！
ピタリホットラリー
 ピタリホットをイベントやツアーなどで実際に体験することで交通安全の意識を芽生えさせる。



折り返し地点、帰りも楽しく！

会話のいらないコミュニティー
ハンドウィンカー
 口で話せない場合にコミュニケーションをはかる方法。セグウェイに乗っている人が積極的に用いることで普及させる。



交通安全はほめて伸ばす！
ほめ隊
 交通安全の担い手意識が芽生えた人たちが、街の中で正しい行動を行っている人をほめ、交通安全の意識を改善させる。



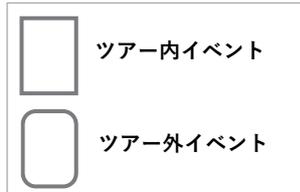
撮ってみたいか？セグウェイを
フォトコンテスト
 「交通安全」をテーマにセグウェイの写真を撮ってもらうことで撮っている人、見る人の意識を変える。



ふたこの文化にふれる
ガイドツアー
 ツアーの中で二子玉川での活動を伝えることで参加者の交通安全の担い手意識を生む。そして、二子玉川への理解を深める。



新旧住民の絆をつくる！
ツアーライド
 セグウェイに乗ることでお互いのまちを住民が散策する。そして双方の知らないところを理解しコミュニティーを生み、連携するようになる。



セグウェイ×ツアーがもたらす効果

安全意識の面

- 他の人を意識した空間把握ができる
- 自分の交通行動を見直すきっかけとなる
- みんなが空間を安全にシェアできる

交通マナーの意識が醸成され、“譲る・譲られる”ができるようになる

コミュニケーションの面

- 自然と笑顔になる雰囲気になる
- 会話がはずむ空間が生まれる
- まちに対する愛着が深まる

公共空間に関心を持ち、まち全体のコミュニケーションが豊かになる

コミュニケーションの高まりを検証する方法

● 行動の分析

自転車の速度や歩行者との側方間隔
 歩きスマホ等の迷惑行為の変化

● 意識の分析

まちの交通安全に関する意識変化
 地域のイベントに対する関心度・参加意欲

継続的な検証

↓
 分析結果を
 ツアーや他の活動に
 フィードバック